

生き方・いろいろ・ゆたかな人生

まなこ



93
2015 Mar.



より良い
パートナーシップ
を考える



- ◎対等な関係性とは—DVの視点から…………… P2
- ◎パートナーシップについて現役大学生の考えは？… P4
- ◎子ども本来の力を引き出す活動…………… P6

特集 より良いパートナーシップを考える

パートナーとより良い関係を築くにはどうしたらいいのでしょうか。頭在化しにくいDVやデートDVを通して、パートナーシップについて考えてみませんか。

対等な関係性とはーDVの視点から

●現在、DVやデートDVが増えていると言われています。両者の違いと現況を教えてください。

本来、人は男女間においても、大人と子ども、親と子、先生と生徒の間であっても、対等な関係にあると思います。しかし、その対等な関係が築けていないのが現状だと感じています。その最たるものがDVではないでしょうか。

婚姻関係にある二者間で起こる暴力をDV、恋人同士間で起こるのがデートDVです。内閣府の発表によると、命の危険を感じるほどのDVにあっているのは20人に1人と言われています。昔は夫婦間で暴力がふるわれていても、警察は介入しませんでした。2001年にDV防止法ができ、結果としてその実態が顕在化するようになりました。

デートDVも同じで、今に始まったことではないとらえています。ただ、こ

ちらはようやく問題としてとらえられるようになったばかりで、まだ法的な規制がないため、相談や支援体制が整っていません。これから行政なども協力してしっかり支援していく必要があると感じています。

私たちが横浜市とともに行ったデートDVについての意識実態調査では、「交際経験がある」と答えた高校生、大学生のうち「被害にあった」と答えた人は35%でした。これは3人に1人の計算になり、潜在的にかなりの確率でデートDVが起きている可能性を示しています。

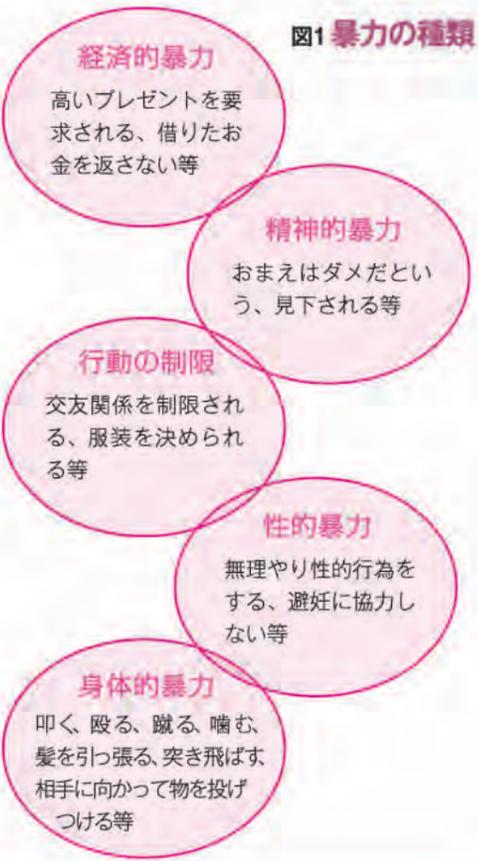
暴力には、身体的暴力だけでなく、性的行為を強いられるなどの性的暴力、自分以外の異性と話してはいけない、メールを読んだらすぐに返信を要求するなどの行動の制限などがあります(図1暴力の種類)。加害者側も被害者側も、それ

がデートDVであると認識しないで行われているケースも多くあるようです。

●どのようにして、デートDVは起ころのでしょうか

加害者も最初から暴力をふるうわけではなく、最初は「毎日報告しあ

図1 暴力の種類



阿部真紀さん

認定特定非営利活動法人エンパワメントかながわ理事長、上智大学文学部卒業、臨床心理学専攻、1999年よりCAP(子どもの暴力防止)スキャンリストとして活動、2004年エンパワメントかながわの設立にかかわり、2011年より現職

図2 DVのサイクル



う」という約束から始まったりします。そうして「返事が遅い」「昨日は報告がなかった」など、束縛がきつくなってきたり、やがて「なんて言う事が聞けないんだ」と殴られるなど、事態がエスカレートしていきます(図2DVのサイクル)。この過程で、徐々に「自分が悪い」と思いこまされていきます。それは、暴力は「お前が悪い」というメッセージを伝える手段でもあるからです。

また、デートDVやDVが顕在化しない理由の一つに、親しい関係の中で起こっているということがあげられます。もし、赤の他人から暴力をふるわれたら、誰もが良くないことだと思います。しかし、恋人から「二人にとって大切なことなのに、お前がわかっていないから殴っ

た」と言われると、「自分が悪い」と思ってしまうことがあるのです。親しい人からふるわれる暴力ほど顕在化しにくいのです。同じことは親から子への虐待という形でも起きていると思います。

●被害者が周りにいたら、どうしたらよいでしょうか

デートDVの相談で多いのは「どうしたら別れずにすむでしょうか?」という内容です。「彼と別れたい」という相談は実はあまりないのです。

別れられない理由はさまざまです。「相手が自分のことをわかってくれる」「好きな時もいっぱいある」と感じたり、相手とつきあうために友達つきあいをやめ、進路を変えたりとたくさんのものを失ってきたため、「この人を失ったら、これまで失ってきたものはどうなる?」と、無意識に天秤にかけてしまうこともあるようです。そこまでつくした相手を失うのも怖い、と感じてしまうのも要因のひとつです。

そうした背景もわからず、周囲の人は「なぜ、別れられないの?」と言いがちですが、その言葉は「別れられないあなたが悪い」という非難にもなっています。それが続くと、被害者が「自分の気持ちは誰にもわかってもらえない」と周りの人から孤立してしまふことになりま

です。もし身近な人が被害を受けていることを知ったら、とにかく話を聴いてください。本人の気持ちをそのまま受けとめることが一番の力になります。そして「あなたは悪くない」「わたしにとって、あなたはとても大切な人だよ」「助けてもらっていいんだよ」ということを伝えてください。残念ながら人が人を変えることはできません。被害者が「自分は大切な存在なんだ」という自尊心を取り戻せた時、その人本来の力を取り戻せると感じています。

●では、本来のパートナーシップとはどのようなものでしょうか

自分の気持ちも大切にしながら、相手の気持ちも受けとめられる関係です。それは、対等な関係の上に築かれるものであり、お互いを大切にしようパートナーシップだと考えています。

その反対にあるのが、どちらかが上でどちらかが下という対等ではない関係です。その関係の中で起こるのが暴力です。暴力をふるい、ふるわれる関係です。

どのような理由があったとしても、暴力をふるわれてもいい人はいません。しかし社会には、それとは反対のメッセージがあふれています。大人は子どもに「あなたを助けたのだから、こいつを助けてあげよう」といいます。こいつを助けてあげよう、自分からあいさつをしな

い」などと言ったりします。それは裏を返すと「ああいうことをしたのだから、そうやって当たり前」「あいさつをしない子はいじめられても仕方がない」という意味になり、「暴力を受けるなど悪いことが起こるのは本人のせいだ」ということになります。

そうしたメッセージを社会から毎日受けとっている子どもたちは、自分の身に何かあった時に「ひどいことをされたのは自分のせいだ」と思うようになり、デートDVの場合でもその考えをあてはめてしまいます。

私たちは社会にあるこのような根拠もなく自尊心を傷つけていくメッセージをなくし、「二人ひとりが大切な存在である」ということを活動の中で伝え続けていきたいと考えています。

「取材文」丸山麻帆 詩水淳子
「DV防止法」2000年に配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律として公布、2004年に改正、婚姻関係がなくとも同居する交際相手からの暴力も法の適用対象とされることとなる

エンパワメントかながわ
神奈川県を中心に、一人ひとりが尊厳をもって生きることのできる社会の形成のため、デートDV予防、子ども護身法プログラム(すきっぷ)、教職員、保護者、若者向けに暴力防止のワークショップなどさまざまな人権啓発プログラムを提供している。

デートDV無料相談電話
0120-51-4477

火曜日18時~21時
土曜日14時~18時 (年末年始を除く)

<http://adv110.org>

パートナーシップについて現役大学生の考えは？

相手とより良い関係を築くために、若い世代はどうとらえ、何を心がけているのでしょうか。昨年11月に武蔵野大学で開催されたデートDV出前講座「その恋本当に大丈夫？～身近な問題としてデートDVを考える」を受講した、武蔵野大学の1年生8人に話を聞きました。

● 講座を受ける以前から「デートDV」という言葉を知っていた方は8人中3人ということですが、講座を受けての感想を教えてください。

白川さん DVは耳にしてきましたが、デートDVはDVと何が違うのかわかりませんでした。恋人間でも暴力があるというのは予想はついていましたが、女子で5人中1人がデートDVの経験者という話を聞いて、想像以上に多いと驚きました。好きな人から暴力を受けるなんておかしいです。

小林さん 殴る蹴るだけが暴力と聞いていましたが、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、精神的暴力、デジタル暴力など、暴力にもいろいろな種類があることに驚きました。自分が暴力ではないと思っていても、自分が暴力に入るとしたら知らないうちに加害者になることがあるかもしれません。

瀧戸さん これまで友達から交際相手について相談を受けてきたときに何気なく「大丈夫だよ」と答えていたことが、もしかしてデートDVだったんじゃないかと振り返りました。講座を聞いて身近な問題ではないでしょうか。

小林さん 相手と対等に思わずに自分が優位に立ちたいという意識や、逆らわれたくない、常に言うことを聞かせたい、という幼稚さが原因だと思っています。高橋さん 好きという気持ちが高まりすぎて、相手に依存するようになるとデートDVにつながるかもしれません。尊敬しあって、互いの自由を奪わないようにすれば起こらないはず。



武蔵野大学にて取材。大学1年生のフレッシュな意見がどんどん飛び出してきました

題だと、驚きと怖さを感じました。

富樫さん デートDVについて知らないのと、その状態にあっても異常に気づけず自分さえ我慢すればいいんだと思ってしまうんだな。だからデートDVについて学べてよかったです。

● SNSなどインターネット上の交流サイトを使った「デジタル暴力」という新しい暴力が生まれていると講座にありました。三鷹のストーカー殺人事件ではリベンジボルトがあったそうですが、皆さんご存知でしたか

寺山さん 私は知りませんでした。(他の参加者も知らない、と首をふる)

● では、聞いてどう思いますか？ また、皆さんが実際にネット上で見た経験したことはありませんか

白井さん LINEやツイッターでつきあっている相手とのキス画像をアイコンにしている友達がいるんですが、見ている方が恥ずかしくなっています。星野さん ツイッターに「今日彼女とどこへ行った」という画像をよく載せている友達もいます。講座を聞くまでは、聞きたくもなかったし、見ることもなかった。でも、これが愛情なんだ、

寺山さん 知識がないことで、支配する側、される側にいることに気づけないことがあるのではないのでしょうか。まずはデートDVについての知識を持つことが大切だと思います。

白川さん DVをする加害者が相手自身のもの扱いをして下に見ることがいけないと思います。でも「これが愛情なんだ、

寺山さん 知識がないことで、支配する側、される側にいることに気づけないことがあるのではないのでしょうか。まずはデートDVについての知識を持つことが大切だと思います。

白川さん 恋人ができる友達を放置しちゃうような子もいますが、友達ともうまく続くようなつきあい方はないと思います。また、相手に勘違いされたくない方、相手にちゃんと伝わる言葉を選びたいです。

星野さん 互いに何でも話せる間柄でも、度が過ぎない関係。相手を考えられる関係を築ければいいと思います。

瀧戸さん 自分の意見を言え、ふたりきりの時間も大切だけれど、他の人とも触れ合える時間をお互いが持つ関係がいいです。

小林さん 対等な関係が大事。友達とも時間をもてるし、ふたりの中に友達が加わっても会話が普通にできれば、ふたりの間でトラブルがあったとしても第三者が介入しやすいから解決も早くなるのでは。

寺山さん 相手に自分と異なる意見を

ている友達もいます。講座を聞くまではそんなに深く考えていなかったけれど、その場がよくても、別れた後に腹いせで画像をばらまかれたりする危険性があることを考えると、どちらも傷つくんじゃないかな。

小林さん 不特定多数の人が目にできる場に、つきあっている相手の画像を掲載するのは理解できないです。

高橋さん 昔つきあっていた相手から頼まれて、ツイッターにツーショットを載せてしまったことがあります。自分は恥ずかしいから嫌だったんですが、自分をしっかり持たなきゃなと思いました。

● 若いカップルの間で、なぜデートDVが起こると思いますか

寺山さん 知識がないことで、支配する側、される側にいることに気づけないことがあるのではないのでしょうか。まずはデートDVについての知識を持つことが大切だと思います。

白川さん DVをする加害者が相手自身のもの扱いをして下に見ることがいけないと思います。でも「これが愛情なんだ、

寺山さん 知識がないことで、支配する側、される側にいることに気づけないことがあるのではないのでしょうか。まずはデートDVについての知識を持つことが大切だと思います。

白川さん DVをする加害者が相手自身のもの扱いをして下に見ることがいけないと思います。でも「これが愛情なんだ、

白井さん 会話の中で相づちをうつことの大切さを心がけています。「あなたの話を聞いていますよ、考えているよ」と伝わるので目上の人にも友達にも心がけて実践しています。その上で自分の意見も伝えるようにしています。

富樫さん 友達同士、何でも言い合えるのはいいと思いますが、いくら仲が良くても、相手が不快に思うことは避けるようにしています。

星野さん 社会に出る上で大切だと感じているのが、プライベートの話を深く追求しすぎず、嫌なそぶりを見せたらそこで止めること、また言葉の選び方です。

寺山さん 相手に自分と異なる意見を

寺山さん 相手に自分と異なる意見を

相手からの支配があるかどうかの CHECK LIST

目に見えない支配や権力がある関係かどうかをチェックしてみましょう。チェックリストにいくつかあてはまる場合は、力の差があり、相手からコントロールされている関係の可能性があります。

- パートナーの言うことは絶対
- 自分の希望をパートナーに伝えるのはとてもエネルギーがいる
- パートナーが帰ってくると緊張する
- パートナーを恐れている
- パートナーがいる前で電話をしたくない
- パートナーを待たせることはできないと思っている
- 自分がどう感じるかよりもパートナーが怒らないかが基準になっている
- 予定より遅く帰るなんてできないと思っている
- パートナーの言動に意見できないと思っている
- たとえ間違っていると思って、パートナーに同調しなくてはならない
- パートナーに自分の本音は絶対に言えない
- パートナーが怒りだすと、なんとなくだめようとしてしまう
- パートナーが機嫌が良い状態であるためにはどんなことでもするとする
- どんなに自分が楽しんでいてもパートナーの機嫌が悪くなるともう楽しむことはできない
- パートナーのセックスの要求は断れないと感じている
- 自分のほしいものでもパートナーが良い顔をしなければ買えない
- 子どもがパートナーの気に入らないことをするとすぐおこせる
- パートナーについてうそがばれるのが怖くてしょうがない

出典：NPO法人レジリエンス

出席者 ● 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科1年生(50音順)



星野雄大さん



寺山明香さん



高橋怜聖さん



白井那知さん



小林太一さん



白川遥菜さん



瀧戸楓さん



富樫瑠衣さん

「まなこ」は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見たいこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

平成26年度『まなこ』第3回サポーター会議 92号「多様な性を考える」を読んで

■非常に難しいテーマをさまざまなお切り口でとらえられていて、読みやすかったです。特に市の教育委員会の記事からは、現状にまだまだ対応しきれないとは言えないが、課題として認識している、という点がわかっただけでも意義があると思った。(40代女性)

■表紙のイラスト、考えている人の髪の毛が描かれていないが、男性、女性に見えるような髪型にしても今回の特集に見えた目だけではない、ということに合っていた気がする。(30代女性)

■寄稿文は学術的な話で難しく感じた。文章の内容を表や絵で表せれば、もっとわかりやすかったのでは。文中の「マジヨリテイがゆさぶられる経験」という言葉はとてもインパクトがあった。(20代女性)

■ジェンダー学を学ぶ機会があったので、今回のテーマは自分としては受け入れやすかった。子をもつ立場から、これからの社会は性について決めつけずに、「男だから」「女だから」という考え方を親から変えていかなければと思った。(30代女性)

■座談会は当事者の生の声としてとても読みやすく、「3年B組金八先生」を見ていたので親近感を覚えた。P3の表はわかりやすかった。(20代女性)
その他、今後取り上げて欲しいテーマなどについて活発なご意見をいただきました。



12月11日(木) 市役所にて

BOOKS★ 貸出しています！

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書から



「モザイク・ハラスメント」とは、いわゆる精神的な暴力、嫌がらせのこと。本書は、著者が実際に家庭内で経験したモザイク・ハラスメントの具体的な事例を次々に示し、夫の暴挙に敢然と立ち向かったその闘いの記録である。読み進めるほどに家庭内で密に行われているモザイク・ハラスメントの実態が明らかとなり、その具体的な内容からモザイク・ハラスメントの本質を知ることができる。夫の言動に疑問を感じ、モザイク・ハラスメントの存在を初めて知った著者がそれに屈せず脱却への道を突き進む姿に、同じ悩みを抱える者は共感し次への一歩を踏み出す勇気を得るだろう。[文 関口直子]

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、男女共同参画社会を実現するための推進拠点施設です
武蔵野市緑2-10-27 武蔵野市政センター2階 TEL: FAX 0422-37-3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.mhnc.jp/

ご存知ですか？ 「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」

武蔵野市立第一中学校生徒さん、6人が来所



平成26年12月17日(水)総合学習の一環として、6人の生徒さんが当センターを訪問されました。テーマは「ワーキングマザー」。女性の就労状況や育児休業法、男性の家事育児参加などのワーク・ライフ・バランスについて、さまざまなデータを通して日本の働くお母さんを取りまく実情を共有しました。

▶講座の詳細・お申し込みは市報やセンターのホームページをご覧ください！
<http://www.mhnc.jp/>

INFORMATION 市民活動推進課 男女共同参画担当から

◎平成27年度男女共同参画推進団体の登録・更新について

女性の学びや社会進出の支援など、男女共同参画の推進を目指す活動をしている市内団体を「男女共同参画推進団体」として登録しています。登録団体は、団体が行う男女共同参画社会実現のための講演会等の講師料等の補助やむさしのヒューマン・ネットワークセンターの会議室の利用及び印刷機使用料の半額免除などの支援が受けられます。詳しくは下記担当へお問い合わせください。

◎市民とつくる男女共同参画情報誌「まなこ」サポーター募集

家庭、地域、社会、労働の場などで男性・女性が共に抱えている問題について関心がある方、活動している方で『まなこ』のサポーターをやっていた方(ボランティア)を募集します。

主な活動：①年4回程度のサポーター会議出席(託児有、3ヵ月以上から就学前まで) ②各号のテーマに関する意見や感想などの提供 ③これから発行する『まなこ』の企画や取材先の提案など

募集：市内在住・在勤・在学の方。10名程度(超えた場合は調整あり)。任期は1年間(平成28年3月31日まで)。

申込み：Eメール・はがき・FAXで
①氏名 ②住所 ③電話番号 ④私の興味ある『まなこ』のテーマ(100字程度) ⑤(活動団体があれば)所属団体名を記入し、市民活動推進課男女共同参画担当まで。
締め切り：3月31日(火)必着

市民部市民活動推進課 男女共同参画担当
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422-60-1869 FAX 0422-51-2000
E-mail SEC-KATSUDOU@city.musashino.lg.jp
URL <http://www.city.musashino.lg.jp>

Editors' Notes 編集 * 後記

悪意があるわけではないのに、多くの人が苦しんでいる。人の心理の深さに驚いた。皆が今より意識を高く持ち、連鎖を断ち切らなければいけない。(詩水淳子)
子どもやパートナーという関係を続けていくのには、日々の努力と気遣いが大事だと実感。もっと自分を大切に、相手にもステキな言葉を投げかけていきたい。(杉田真奈美)

よりよいパートナーシップとは何か。夫との関係、子どもとの関係、友人との関係など、改めて見つめ直す良い機会になりました。(関口直子)

愛しているから束縛したい、という気持ち：自分は抱いてしまいがちな性格だと認識し、反省しました。娘にも友人にも対等でほしい距離感。(友野その子)

親しい間柄こそ、ひどい言葉や態度が相手の自尊感情を奪ってしまう。怖いことです。再度自身を見直し、せつかなら周囲を元気に、しあわせにしていける言葉や行動を選んでいきたいです。(丸山麻帆)

パートナーシップ——いつどんな時でも大切な心のあり様。社会全体で育んでいかなければと思います。(天後麻美)

◎織込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。27年度も『まなこ』を引き続き愛読ください。

* STAFF *

- サポーター 赤崎江里 菊池由起 鬼頭麻佐
名久井梨香 平川みのり
- 取材・編集 詩水淳子 杉田真奈美 関口直子 友野その子
丸山麻帆 矢後麻美 市男女共同参画担当職員
- 編集協力 栗原 毅
- 表紙・イラスト ふじわりらわ
- デザイン 上田ジュンコ
- 印刷 プリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、市内の医療機関、美理容院、大型店舗、金融機関、おふろ屋さんなど市内の約450か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画担当まで。